

第42回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2006年10月17日（火）10：30～11：00

2. 場 所 中央合同庁舎4号館7階共用743会議室

3. 出席者 齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員
内閣府 原子力政策担当室
黒木参事官

4. 議 題

（1）アジア原子力協力フォーラム（FNCA）第3回「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの開催について

（2）その他

5. 配付資料

資料1 アジア原子力協力フォーラム（FNCA）第3回「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの開催について

資料2－1 原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会への参加者及びご意見の募集について

資料2－2 原子力委員会政策評価部会（第9回）の開催について

資料3 第40回原子力委員会定例会議議事録

6. 審議事項

（齋藤委員長代理）それでは、時間になりましたので、第42回原子力委員会の定例会議を始めさせていただきます。

本日は議題としましては、「アジア原子力協力フォーラム（F N C A）第3回「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの開催について」、2番目、その他であります。

（1）アジア原子力協力フォーラム（F N C A）第3回「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの開催について

（齋藤委員長代理）それでは、お願いします。

（黒木参事官）それでは、事務局の方から、資料第1号に基づきまして、アジア原子力協力フォーラム（F N C A）の第3回「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの開催について、御説明申し上げます。

本F N C Aアジア原子力協力フォーラムでございますが、10カ国の参加者からなる会合でございます。閣僚レベルでの会合を年に1回開催するとともに、8つの分野で12領域で協力を行っているものでございます。

アジアの国でございますので、今までは主に放射線利用を中心に協力を行ってきたところでございますが、約2年ほど前でございます、アジアの持続的な発展における原子力エネルギーの役割検討パネルというものを設置いたしまして、具体的には原子力発電についてアジアの中での役割について検討するということで、3カ年間、検討を行うこととなりました。

第1回、第2回におきましては、原子力発電がアジアにおいてどういう役割があるのか、意義深いものであるのか、また原子力発電所を導入するとするならば、どのような共通課題、安全の問題でありますとか、情報の公開の問題でありますとかについて、検討を行ってきたものでございます。

今回は第3回になりまして、主催は原子力委員会、それから共催として文部科学省が一緒に開催することになります。開催時期が11月1日、2日、開催場所は敦賀市のウェルサンピア敦賀であります。参加国ですが、まだ参加の御返事は来てございませんが、オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、日本ということで、バングラディッシュは昨年の閣僚会議からオブザーバーとして参加しております。メンバーとしては、各国のエネルギー政策及び原子力政策がかかわる行政官及び専門家の間で議論が行われることになります。

参考として、第1回、第2回とも東京にて開催いたしまして、第1回は主に原子力発電の意義について御議論を行い、第2回は共通課題、安全の確保等について整理を行ったところ

でございます。

裏側のページにプログラムの案を書いておりますが、1日水曜日、開会セッションで、近藤委員長より御挨拶をお願いしたいなと思っております。

セッションの1で、第1回、第2回のパネルのサマリーと最近の原子力エネルギーを巡る世界の動向等についてお話をし、セッション2の招待講演のところで福井県の取組、アジアのエネルギーの見通し、現在、原子力参加国の間で原子力発電の計画がございますのは、ベトナムとインドネシアでございますので、両国の原子力発電の導入計画などについて講演をいただこうと思っております。

セッション3が、FNCAにおける協力のあり方について御検討いただき、セッション4、これはパネルの報告書ということで、3年間の結果を、全体をまとめたパネルの報告書を議論していただくということでございます。

翌2日の閉会セッションでは、第7回的大臣級会合への報告案についてということで、パネルの報告書を踏まえた大臣会合への報告案のご議論と、全体のパネルの議論の後になりますが、第3回でのパネルのサマリーを行うという予定にしております。

今回、パネルを敦賀で開催いたしましたのは、参加国の方に原子力発電所を、是非実際に見ていただきたいということ、それから、福井県がエネルギー研究開発拠点化計画という計画を進めておりますので、その支援というか、その活動に加わるという視点で敦賀市で開催することにいたしまして、敦賀原子力発電所、それからもんじゅ発電所の方を視察したいということで計画しております。

以上であります。

(齋藤委員長代理) ありがとうございます。

今、敦賀を支援とありましたが、このパネルの会合自体は非公開ですね。要するに一般の人が参加するというものではないですね。

(黒木参事官) 議論を行うのはクローズなんですけれども、一応、プレス等に今まで、確か第1回、第2回、一部公開しておりまして、部分的に、議論に参加しませんけれども、プレス等に公開は……。

(齋藤委員長代理) 頭撮り。

(黒木参事官) ええ、頭撮り、もしくはセッション1、2の講演みたいなところがよろしいのかもしれない。関係者とこれから御相談することになっております。

(齋藤委員長代理) いかがでございましょうか。

(木元委員) パネルの内容とはちょっと違うんですけども、確認です。先週申し上げた 11 月 2 日木曜日、委員会の打ち合わせ会と今回のパネルの関係はどうなりますか。

委員長はお出になりますよね。

(黒木参事官) はい。

(木元委員) あと、町委員さんも敦賀にいらっしゃる。

(齋藤委員長代理) その件は、本委員会と別でお話をいただいた方がいいと思うんですが。スケジュールリングの件は。後ほど御相談させていただきたいと思います。

(木元委員) 打合会の開催があるかないかぐらいは分かりますよね。

(黒木参事官) それでは、ちょっと後ほどよく考えて御相談したいと思います。

(齋藤委員長代理) では、その件は後ほどで。本件の内容について御議論いただきたいと思います。

(町委員) 「福井県の取組」という、この招待講演の題というのはちょっと、これは福井県のエネルギー研究開発拠点としての取組ということなんですね。

(黒木参事官) そうですね。もうちょっと具体的に書いた方が分かり易いですよね。何の取組が分からないので。

(齋藤委員長代理) これは、スピーカーはどなたですか。

(黒木参事官) スピーカーは、現在、県の人ともこれから御相談しようかと思っているんですが、敦賀フォーラム、エネルギー開発拠点の関係者の方、県の行政や原子力関係での国際関係に長く携わっているような方、内容をよく知っている人をお願いしようかと思っています。まさに県がやっているエネルギー研究開発拠点化計画、これの中心となっている人をお願いしようと思っています。まだ、人選、具体的な名前は決まっておりません。

(齋藤委員長代理) そうですか。

(木元委員) 内容ということで、以前から F N C A については、いろいろな場で考え方を述べさせていただいているんですけども、主催が原子力委員会になると、このプログラムも原子力委員会が全部作るんですよね。文科省が作るのですか。

(黒木参事官) そうですね、実際原子力委員会が作ると。ちょっとこれ、内閣府と原子力委員会が前々からずっと同じ資料なんですけど、内閣府プラス原子力委員会なのか、内閣府の原子力委員会なのか、いずれにしろ、内閣府の原子力担当室も。

(齋藤委員長代理) それは、大臣がお出になる、大臣級会合のときはそういうことかもしれませんが、その他は実質的に原子力委員会ではないのですか。

（黒木参事官）そうですね。我々、内閣府とあっても原子力担当室なので、原子力委員会事務局としての内閣府になると思いますので、基本的には原子力委員会が主催と。

（木元委員）そうですね。もう余り日時が無いから、コンクリートしていかないと。

（黒木参事官）そうですね、このプログラムの方を…。

（齋藤委員長代理）そういう意味では、先ほど参加国の予定が書いてありますが、まだ返事とはかというお話もありましたが、このうち何カ国が出て、何人ぐらいになるのですか。一カ国何名が来るのか、それもまだはっきりしないのですか。

（黒木参事官）例年だと、役所の課長級、次長級のクラスの方が高い出席率で来ていただけるので、まず各国、出席いただけると。

（町委員）韓国とオーストラリアが昨年は来てないですよ。オーストラリアは、最近は原子力発電について非常に関心が高まっているので、今年はどういう返事が来るか分かりませんが、出席する可能性もあると思います。韓国は第1回は来てましたけれどもね。

（前田委員）今、各国、議長もしくは課長クラスという話があったんですけども、このFNC Aの他のテーマは、確かワーキンググループ…。

（町委員）プロジェクトと言っていますね。プロジェクトのワークショップとなっていますね。

（前田委員）これは検討パネルということですよ。

（町委員）これはパネルということですね。

（前田委員）これは参加しているレベルが違うということなんですか。

（町委員）プロジェクトというのは、何かもうちょっと、例えば品種改良をやって、新しい品種ができたとか、あるいはアイソトープの製造でテクネシウムジェネレーターの技術が開発されたとか、そういうより目に見える成果を狙っているのがプロジェクトなんですよ。パネルというのは、情報交換と、意見交換という観点が強いので、パネルという名前をつけた。

（前田委員）それは分かります。それで、前回の時に共通課題の議論をしたということで、下の方に「核不拡散等」の「等」の中に入っているかも分からないけれども、例えば廃棄物だとか、規制問題だとか、他にもテーマがあると思うんだけど、これは「等」の中に入っていると見ていいんですか。あるいはそこまで詳しくは議論してなかったということですか。

（町委員）これまでは、まだそこまで深くまでは議論していないんですね。このFNC Aの果たす役割、協力のあり方について議論するセッション3があります。ここで各国の要望や希望が出ると思うんです。

（前田委員）それから、一つちょっと細かいことですが、最後のテクニカルツアー、現

場の発電所を見てもらうのは非常に結構だけど、敦賀発電所ともんじゅとなっていますけれども、これは両方とも半島の先端にあります、ぐるっと回らないといけないんですよ。時間的に多少かかるかなと。もし効率よく回るんだったら、美浜発電所ともんじゅだったらずっと行けるんだけど。

（齋藤委員長代理）今は半島の真ん中にできましたよね、道が。

（前田委員）できました。できたけれども、やはりあそこを回ると相当…。決まっているなら別にどうでもいいですけども。

（黒木参事官）まだフィクスまではしていないんですけども、敦賀発電所だとPWR、BWR両方ある、それとFBR、全部見れるかなということなんですけれども、ちょっと現地の文科省の敦賀事務所と相談しながら今日程を組んでいますので、日程が厳しそうであれば、また少し変えることに、美浜発電所になる可能性もまだ残っております。

（齋藤委員長代理）これは午後、半日ですか。

（黒木参事官）お昼からということなんで、半日なんで、結構厳しいスケジュールかもしれません。

（齋藤委員長代理）そうですね、そういう意味合いでは、前田先生のおっしゃるとおりですね。

（黒木参事官）現地の状況をまだ確認してないものですから、変更されるかもしれません。

（齋藤委員長代理）それから、先ほど前田先生がちらっとおっしゃいましたが、1ページの下にいろいろな項目があり、廃棄物なども入っているのかという問題、その前に国民の合意形成とか経済評価、人材養成、これは各国で事情が相当異なるわけで、どの程度のものが最後の報告書でまとめられるのかですね。要するに、他では得られないような情報が得られるのか、まとめられるのかどうか、その辺、パネルのステイタスにかかわるところじゃないかという感じがするのでですけども。

（町委員）このパネルは、このタイトルからも分かるように、原子力エネルギーの役割ということ、つまりエネルギー全体のこれからの需給見通しをまず各国から報告してもらって、それに基づいてこの急増するエネルギー消費にどうこたえるかという議論をしてもらったんですね。それには、例えば省エネルギーはもちろんだし、新エネルギーの風力とか光の話も出ましたけれども、原子力の役割が非常に大きいということが共通の認識になったと私は思っています。その場合に、やはり原子力の導入ということになると、いろいろな基盤整備を含めて課題がありますねということも議論されてきた。しかし、この点については突っ込んだ議論はなされてはいないんですね。そういう課題を認識したということだと思いますけれども、

廃棄物の問題ももちろんそういう意味では大事な課題だという話は出ておりますけれども、だから、これまでは共通課題としての認識を深めたということです。

中身の突っ込んだ議論というのは、これからの課題です。

(齋藤委員長代理) それから、この間の I A E A の総会前後から、俄かに問題になっている燃料の供給保証ですね、そういう問題もありますから、どこまで本当に突っ込んだ議論ができるのかというところは一つのキーポイントだろうと思うんですけどもね。

(木元委員) 町先生、確認ですけど、この一番最後の〈参考〉第2回会合、今、御論議があったところですが、私、当時のペーパーとか、現場の感触を伺ってはいないんですけども、やはり国情がそれぞれ違いますし、国民の合意形成一つとってみても、それぞれの国が自分の国はこういう状況だ、先進国を参考にしたいが、というようなことカントリーレポートになったりしますね。でも、そこでディベートが行われて、例えば国民の合意形成の場合には、我が国ではこれがキーだということ、いやそれは違うというような話し合いまでは突っ込んでやらなかったと思うのですが。

(町委員) そこまでは突っ込んでやっていませんね。

(木元委員) ですから、これを一つ一つとってみても、これからやることというのは物すごくあるわけなんです。どの程度国民に知らされていて原子力を進めようとしているのか、知らされないでトップレベルだけで話し合っているのかでは全然違うので。

(町委員) 例えばタイ国は、やはりパブリック・アクセプタンスが非常に重要になっている…。

(木元委員) タイは一時導入まで行ったのが後退していますからね。

(町委員) そうですね。フィリピンの場合もそうですけれども、それに対して対策が必要かとか、突っ込んだ議論は、行われていない。そういう専門家でもないということもありますけれども。

(木元委員) レポートだけに終わってしまって、ディベートはなかなかできないと。

(町委員) ディベートはどちらかという、むしろエネルギー全体の話で、エネルギー需要が増えていくということはみんな共通認識し、しかも、化石資源が非常に限られているという状態でどうすべきかを議論したいのです。

(木元委員) それは見えているんですよ、はっきりと。エネルギー全体の話は通常のレベルでやっている話で、この合意形成なんか本当に難しいのでディベートの意味があると思いますね。

(齋藤委員長代理) F N C A の1つのタスクとして、これはパブリック・アクセプタンスがあ

ったんじゃないんですか。

(黒木参事官) 8分野12領域の1つに、原子力広報というのがございます。今やっている8分野12領域、主に放射線利用を中心とした活動ですので、原子力発電について、やはり今回のパネルのこの2年間でとっかかりということになるかと思います。

今までのパネルのディスカッションにつきましては、具体の協力というところまで来ておりませんので、これはまた今後の課題になってくると思うんですけれども、委員の先生方とまたFNCAの協力のあり方について、どうするかというのを御議論をいただく必要があるかと思うんですが、今後、本当に協力を行う、具体の協力を実際に持っていくとするならば、どういう形態がいいのか。例えば将来的に発展すれば、今の8分野12領域の中に、さらにプラス原子力発電の何とかですね、そういうのを作って、これはちょっと予算との関係があるので、関係省庁の協力も必要になってくるのですけれども、具体の協力に進むとすれば、どのような形がいいのかということを議論して、コンセンサスができれば、必ずしもパネルの場ではなくて、新たに協力分野を設けていくという形になっていくんだらうと思っております。

今までの3年間はそこまではいってなくて、その前段というか、どういう状況なのかという10カ国がコンセンサス、全体の状況と意思形成、特に原子力発電所の必要性は、木元先生言われたように、国によって全体が違いますので、国のお役人のレベルでも意識が違う状況の中で話をしてきたという感じです。

(齋藤委員長代理) これは原子力発電という観点から見ますと、多分3つのグループぐらいに分かれて、中国、韓国、もちろん日本、それからこれから作ろうとしているインドネシア、ベトナム、そしてその他まだ計画も見えていないところと、こういうところが混ざっているわけですね。その中で、どういう枠組みで本当にやるのが効果的なのかということも別途考える必要があるとは思いますが。

(木元委員) 七、八年前だと、二国間という感じが結構あったんですね。私は正式に出ていたわけじゃないけれども、FNCAで話が出て、ベトナムから、日本ではPA関係でどのようなパンフレットを、どういう形で出したか、資料を欲しいというので、たしか当時の科技庁から送っているんですよ。そういうものの成果がどういうふうに生かされているのか。それから、その後、町先生もベトナムに行かれて、資料をお持ちになって話し合っていますね。ですから、二国間ではかなり詰まっている部分もあることはありますね。

(町委員) これは3年ぐらい前の大臣級会合の時に、CDMに原子力というのが入っていない

のはおかしいということ、韓国とか、それからベトナムとかの国から発言がありまして、コンセンサスとしてCDMに原子力を取り込むべきではないかという見解を発表できるかなという議論をしたんですよ。

その時にまだ早いんじゃないかと言って発言したのが、タイ、マレーシア、オーストラリアだったんですね。やはり、国によって原子力に対する認識というのは非常に温度差があるということがその時に分かったわけですが、そういうことも踏まえて、このエネルギー問題の中で原子力の役割はかなり大きいということ、FNCAのグループの中で議論してみようじゃないかということで、このパネルが始まってきたわけなんです。

それと、一方では、国際的に石油の価格上昇とか温暖化の問題があって、原子力の大事さというのが認識されつつあるということでもあるんですけれどもね。

(木元委員) CDMは、COPも初めの頃は取り入れる気配はなかったけれども、最近になって、はっきり論ずるようになっていきますし、進歩しているんですよ、そういう意味では。

(町委員) そういう意味で、認識を共有するという意味はあったかなと思うんですけれどもね。

木元先生おっしゃった二国間というのは、やはりこういうマルチの場があって、そういうところでいろいろな協力や議論をしている中から具体的な二国間の連携が生まれてくるということは十分あり得るのです。ベトナムはおっしゃるとおり、今、経済産業省が原産も含めて人材養成に協力していますけれどもね。

(前田委員) FNCAでは、従来は放射線利用をやってきていて、エネルギーのことはやってこなかったけれども、いろいろ情勢の変化もあり、今回3年にわたって議論をしたと。これは言うならば、準備会合的な感じがあって、ここで議論をして、皆さんがある程度の共通的な認識を持ったら、それをもう少し具体的な協力関係にどういうふうに進展させていこうかというのは、あなたがおっしゃったようにこれからの課題であると思うんだけど、それはこの第3回までのパネルのサマリーを持って、大臣級会合に報告して、そこで今後どうするかということを決めてもらうということになるわけですね。

(町委員) 最終的にはそうですね。その前の上級行政官会合というのがありますから、そこでもうちょっと実務レベルの議論をした上で、大臣級会合に報告することになります。

(前田委員) 一応共通認識は得たから、あとはしばらくは各国それぞれに検討しましょうということになるのか、せっかく動かし出したんだから、これはFNCAでももう少し具体的なところを進めていきましょうかというのは、これからの議論なんでしょうけれどもね。

(齋藤委員長代理) よろしゅうございますか。

いろいろと委員の先生方からご指摘をいただきましたので、その辺を踏まえて、この第3回の検討パネルを開いていただけたらということだと思います。

それでは、それでよろしゅうございますか。

(2) その他

(齋藤委員長代理) それでは、その他の案件お願いします。

(黒木参事官) その他の案件ですけれども、まず最初の政策評価部会、ご意見を聴く会の開催についてのご連絡が1件ございます。

原子力委員会の政策評価部会で現在、平和利用の担保について検討を行っているところでございますが、これにつきまして、ご意見を聴く会を新潟市において11月17日金曜日、午後ですけれども、朱鷺メッセという場所で開催することとなっております。資料は、第2-1号で配付してございまして、これでご意見を聴く会への参加者及び参加される方に対するご意見の募集ということで御案内を用意してございます。

本会議終了後、この資料2-1号で開催する旨、関係のプレス、新潟の方のプレスも含めましてご連絡する予定となっております。

それから、もう1点ご連絡事項であります。資料2-2号ですけれども、政策評価部会の第9回の会合の開催案内でございまして、10月25日木曜日の午前中に虎ノ門三井ビルにて開催する予定となっております。

以上です。

(齋藤委員長代理) よろしゅうございますか。

それでは、その他、先生方の方からいかがでございますか。

よろしいですか。

では、本日の会合は以上にいたします。

(黒木参事官) 次回は、第43回原子力委員会定例会は、24日火曜日10時半からこの会議室で開催する予定になっております。

(齋藤委員長代理) ありがとうございました。